

土木計画学研究委員会 阪神淡路大震災調査特別小委員会報告

委員長 飯田恭敬（京都大学）

1. 小委員会設立の経緯

1995年1月17日の兵庫県南部地震によって、鉄道・道路・港湾等の土木構造物が大きな被害を受けた。そのため土木学会では調査団を派遣して被害の調査を実施したが、第2次及び第3次の調査団には土木計画学の関連のメンバーも参加して、土木計画、都市地域計画、交通計画等の面から被害調査を行った。このように、震災調査に土木計画学関係の人が参加することは今回がほとんど初めてであるが、調査の結果、土木計画学の分野においても阪神淡路大震災に関連して、様々な研究を行う必要があることが痛感された。

また土木学会の阪神淡路大震災調査報告書編集委員会（委員長：片山恒雄（東京大学））からも、土木計画学の分野における協力の要請があった。このような状況において、土木計画学研究委員会では、阪神淡路大震災調査特別小委員会を当委員会の中に設置し、今回の震災に関連する調査・研究を行うこととなった。

2. 小委員会の目的

（1）阪神淡路大震災調査報告書編集委員会と協力し、阪神淡路大震災に関連する土木計画学分野の必要な調査、資料収集、研究を行う。

（2）調査結果、データの相互利用を促進し、研究成果の深化を図るための活動を行う。

（3）中・長期的に見て、今後土木計画学として取り組むべき研究領域・課題等について検討・議論し、提言を行う。

3. 小委員会の活動内容

本小委員会は、常置委員会である土木計画学研究委員会の下で、独自の調査研究活動を行うが、土木学会阪神淡路大震災調査報告書の作成にも寄与することを考えている。

本小委員会は次の7つの分科会を設け、分科会を中心に活動を行っている。

分科会	主査
1. 物流・経済	稲村（東北大学）
2. 道路交通	谷口（京都大学）
3. 緊急対応・復旧	林（名古屋大学）、 家田（東京大学）
4. 市街地整備	村橋（立命館大学）、 浅野（早稲田大学）
5. 海上・航空輸送	黒田（神戸大学）
6. GIS・情報・データ	柴崎（東京大学）
7. 地区交通と防災	塚口（立命館大学）、 小谷（神戸商船大学）

各分科会は主査を中心として、大学、官庁、民間会社等の研究および実務に携わる方々が集まって、データの収集、調査、分析等を実施している。

今回の大震災は日本の社会・経済に非常に大きな影響を与えたが、土木計画の分野においても、様々な問題を提起している。たとえば、防災を考慮した都市計画・交通計画のあり方、土木施設のリスクの評価手法、緊急時の交通のマネジメント、緊急時の情報提供の手法等、多様な問題について研究を行う必要がある。ところが、これらの問題は土木計画学の分野ではこれまであまり研究されてこなかった問題であるので、今回の大震災を契機として、実態の把握、データの分析を通じて研究を深めたいと考えている。

さらに、中・長期的に見て、防災に関連した土木計画学の研究領域および研究課題のうち重点的に研究が必要なものについて検討し議論をしてゆきたいと考えている。

以下に各分科会においてこれまでに調査・研究を行った結果についてその一部を報告する。